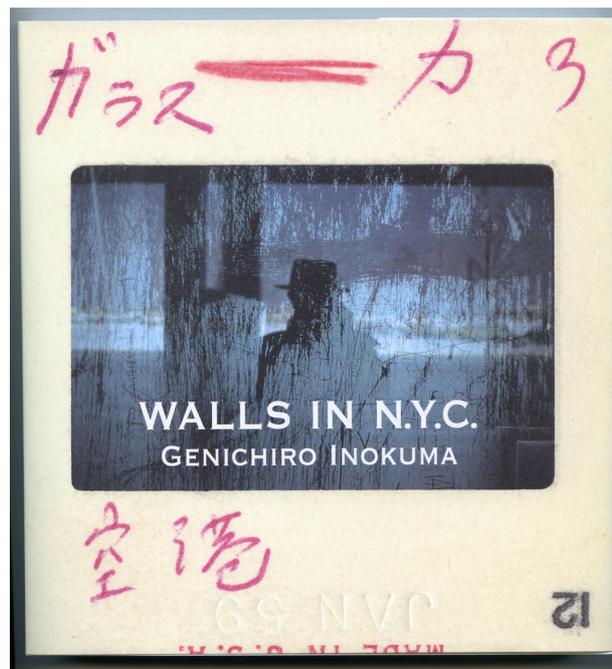


2017年1月

プレスリリース

猪熊弦一郎 写真集『ニューヨークの壁』発行について

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館



[お問い合わせ先]

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

公益財団法人ミモカ美術振興財団

担当 古野華奈子

〒763-0022 香川県丸亀市浜町 80-1

Tel. 0877-24-7755 Fax. 0877-24-7766

E-mail. press@mimoca.org

猪熊弦一郎、初の写真集出版！

猪熊弦一郎 写真集『ニューヨークの壁』

Walls in N.Y.C. Genichiro Inokuma

この度、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館では、画家猪熊弦一郎（1902-93）がニューヨーク滞在中に撮影した写真を、写真集にして発行いたしました。タイトルのとおり、ニューヨーク市街で撮った、壁の落書きやポスターの剥がし跡などの写真を集めたもので、猪熊は、これらの被写体を 35mm カラーポジフィルムで撮影し、スライドマウントし、「壁」と記したファイルに選り分けていました。そして、これらのスライドを映写して自身で楽しんだり、親族や友人たちに見せたりしていたようです。本書では、そのスライドの中から 57 点を厳選し、1 冊の写真集にまとめました。

【写真集概要】

タイトル：『ニューヨークの壁』

写真撮影：猪熊弦一郎

写真編集：鈴木理策

デザイン：黒田益朗

価格：2,700 円（税込）

仕様：カラー128ページ、h210×w195mm、ソフトカバー、日英バイリンガル

発行日：2016年12月14日初版第一刷 700部

発売日：2017年1月7日

発行者：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団

【写真集詳細】

◎猪熊の撮った「壁」の写真について

猪熊が撮影を行った 1950 年代後半から 60 年代は、後にニューヨークで盛んになった「グラフィティ・アート」もまだ生まれていなかった時代です。渡米直後の猪熊の目に、これらの素朴な落書きは「純粋な人間の心がそのまま壁に残っている」ように映り、「その自然な表現がいかに面白く、やっきになって写真をとった」と述べています。画家によって四角く切り取られた写真のイメージは、抽象絵画のようにも見え、実際に、滞米初期の絵画作品と見比べると、「壁」からヒントを得たと思われるような描写を見いだすことができます。画家の鋭い目が、ニューヨークの日常の中に何気なく存在している美を余すところなく捉え、それを自身の絵画表現へと昇華させていたことがうかがえます。

◎写真集『ニューヨークの壁』について

本写真集には、「壁」ファイルに収められたスライド 154 点と、同様の別ファイルのスライド 12 点、合わせて 166 点の中から厳選した 57 点の写真に掲載しています。写真の編集（選別と配列）は、シークエンスにおいて評価の高い写真家の鈴木理策が行いました。落書きそのものが面白いもの、壁の材質や凹凸などテクスチャーやディテールに目がいくもの、などなど、様々なタイプの壁がテンポ良くあらわれてきて、見る人を飽きさせません。書籍デザインは、デザイナーの黒田益朗によるもので、全ての写真で猪熊が文字や絵を書き込んだスライドマウントをそのまま生かした、他にない斬新なデザインとなっています。

「グラフィティ・アート以前」のニューヨークの落書きを、「カラー」で見せるこの写真集は、猪熊の作品集というだけでなく、当時のニューヨークの街の様子を記した貴重な資料にもなっています。

【出版記念対談のお知らせ】

猪熊弦一郎写真集『ニューヨークの壁』出版記念 対談 鈴木理策×黒田益朗

本書において、写真の編集を担当した鈴木理策と、デザインを担当した黒田益朗による記念対談を開催します。本書や猪熊の写真の魅力について、展示室でお話いただきます。

出演：鈴木理策（写真家）、黒田益朗（デザイナー）

日時：2017 年 1 月 22 日（日）14：00-

会場：3 階展示室 C

料金：無料（観覧チケットが必要、100 席）

申込：不要

【関連企画展のお知らせ】

猪熊弦一郎展「私の履歴書」後編 東京／ニューヨーク

会期：2016年11月19日(土) - 2017年2月12日(日) 休館：年末12月25-31日 [79日間]

時間：10:00-18:00 (入館は17:30まで)

会場：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 展示室C

主催：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団

観覧料：一般950円(760円)、大学生650円(520円)、高校生以下または18歳未満・丸亀市在住の65歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方は無料

- ・同時開催常設展「猪熊弦一郎展 バランス」の観覧料を含む
- ・()内は前売り及び20名以上の団体料金

[作家プロフィール]

猪熊弦一郎 / Genichiro Inokuma (1902-93)

- 1902 12月14日、父八太郎、母マサエの長男として、香川県高松市中新町に生まれる。
- 1921 旧制丸亀中学校(現 香川県立丸亀高等学校)を卒業。
- 1922 東京美術学校西洋画科に進学。藤島武二に師事する。
- 1926 帝国美術院第7回美術展覧会に初入選。以後、第10回、第14回で特選となるなど、1934年まで主に帝展を舞台に活躍する。
- 1927 東京美術学校を中退。
- 1936 志を同じくする伊勢正義、内田巖、小磯良平、佐藤敬、三田康、中西利雄、脇田和、鈴木誠と新制作派協会(現 新制作協会)を結成。以後、発表の舞台とする。
- 1938 フランスに遊学。アンリ・マティスに学ぶ。
- 1940 ヨーロッパの戦況が激しくなり、最後の引き揚げ船、白山丸で帰国する。
- 1941 中国文化視察のため南京方面に派遣される。
- 1942 陸軍省派遣画家としてフィリピン戦線に派遣される。
- 1943 従軍画家としてビルマに派遣される。
- 1950 三越の包装紙「華ひらく」をデザインする。
- 1951 国鉄上野駅中央ホールの大壁画《自由》を制作。
- 1955 再度パリでの勉強を目指し、アメリカ廻りでの世界旅行を計画、日本を発つ。途中立ち寄ったニューヨークに惹かれそのまま留まることとし、約20年間同地で制作する。
- 1956 ニューヨークのウィラードギャラリーで新作個展を開催。以後、同ギャラリーの所属作家となり、1972年まで全10回の個展を開催する。
- 1975 ニューヨークのアトリエを引き払う。その後、冬の間をハワイで、その他の季節は東京で制作するようになる。
- 1989 丸亀市へ作品1000点を寄贈。
- 1991 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館が開館する。
- 1992 所有するすべての作品などを丸亀市に寄贈する趣旨の文書提出。以降、順次丸亀市猪熊弦一郎現代美術館に搬入。
- 1993 東京にて逝去。90歳。